

サイクルアンドバスライドについて

■1 サイクルアンドバスライドとは

サイクルアンドバスライドとは、自宅からバス停まで自転車でいき、自転車をバス停付近に駐車してバスに乗り換える方法である。バス停付近に駐車した自転車が放置自転車にならないようバス停付近に駐輪場を設けるのが一般的である。

平成 29 年度第二回国立市地域公共交通会議、令和元年度第一回国立市地域公共交通会議において情報提供を兼ねて神奈中バス(茅ヶ崎市内など)、三鷹市における実施事例、西武バス新道福島停留所・立川バス富士見町操車場バス停などの状況を紹介した。

一方、国立市南部地域における公共交通について、デマンド交通などの可能性も実証実験等により検討したが利用が芳しくなかったこと、実施にあたってのヒアリングの中で「多摩青果市場バス停※」付近に自転車を置いてバスを利用している実態があることが明らかになったこと、市民から「国立泉団地バス停※」への駐輪場設置要望のメールが寄せられていること、コロナ禍において少しでもバス利用者を増やすための方策の一つとしてサイクルアンドバスライドについて検討しているところである。

※…いずれも国立市南部地域にある路線バスのバス停

■2 国立市南部地域の地形的特徴

国立市南部地域は多摩川河岸段丘の最下段の沖積低地(国立インター付近で標高58m程度)となっている。一方、矢川駅は青柳面(標高70m程度)、国立駅は立川面(標高75m程度)に位置することから、駅や駅周辺の商業施設などに自転車でアクセスするのは、特に高齢者には負担になるとの声がある。

■3 実施のポイント

- ・国立泉団地、スーパーバリュー付近、デマンド交通の実証実験区域などの多摩川沖積低地内相互の移動は基本的に高低差がないことから自転車での移動が容易である。
- ・サイクルアンドバスライドの駐輪場は通常無料なので、シルバーパスを利用すれば移動時の支出はなしで矢川駅、国立駅などに出ることができる。

■4 検討の状況について

立川バス国立操車場バス停付近などを候補地として、実施可能性について運行事業者と協議をしている段階である。その他、適地があれば市としても社会実験的に1~2か所進めていきたい。

(以上)